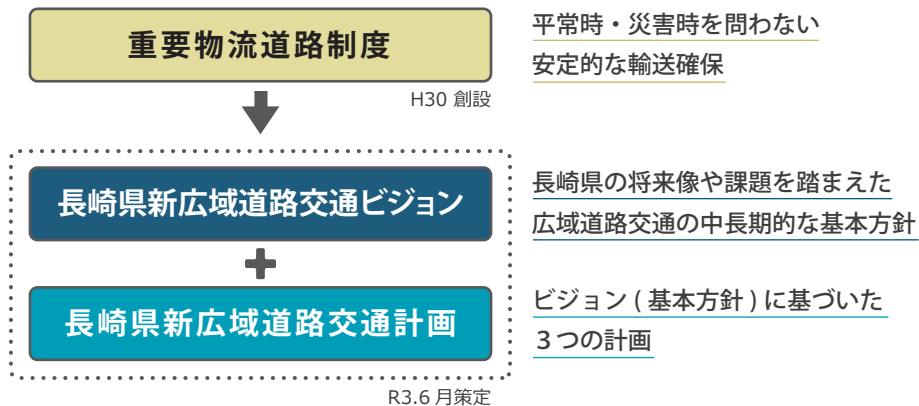


長崎県新広域道路交通ビジョン

1 ビジョンの位置づけ

平成30年3月の道路法改正において、平常時・災害時を問わない安定的な輸送確保を目的とした「重要物流道路制度」が創設されており、これを契機として本県の新たな広域道路交通計画を策定しています。

本ビジョンは、新たな広域道路交通計画の策定にあたり、今後の広域道路交通の中長期的な基本方針を示すものとして令和3年6月に取りまとめたものです。



2 長崎県の将来像

長崎県総合計画 チェンジ&チャレンジ2025 (R3-R7)

基本理念

「人・産業・地域を結び、新たな時代を生き抜く力強い長崎県づくり」

将来像

地域で活躍する人材を育て、未来を切り拓く

力強い産業を育て、魅力あるしごとを生み出す

夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る

3 広域的な交通課題と新たな取り組み

広域的な交通課題

- 交通ネットワークの安定性・速達性
- まちの大きな変化に伴い求められる交通拠点の連携強化・機能強化
- 都市部における慢性的な渋滞の解消
- 離島・半島地域における公共交通のあり方の変化
- 激甚化・頻発化する自然災害への対応
- 道路構造物の長寿命化

取組

- ICT 技術を活用した新たな取り組み

4 広域的な道路交通の基本方針

① 広域道路ネットワーク

- ・ 主要都市間における多軸型ネットワークの構築
- ・ 高速交通ネットワークと一体となった道路ネットワークの構築
- ・ 都市部における交通の円滑化
- ・ 既存ネットワークの機能強化、代替性の確保

② 交通・防災拠点

- ・ 九州新幹線西九州ルートとの連携強化
- ・ 空港・港湾におけるゲートウェイ機能の強化
- ・ 地方部における公共交通拠点の機能強化
- ・ 主要な防災拠点の機能強化

③ ICT交通マネジメント

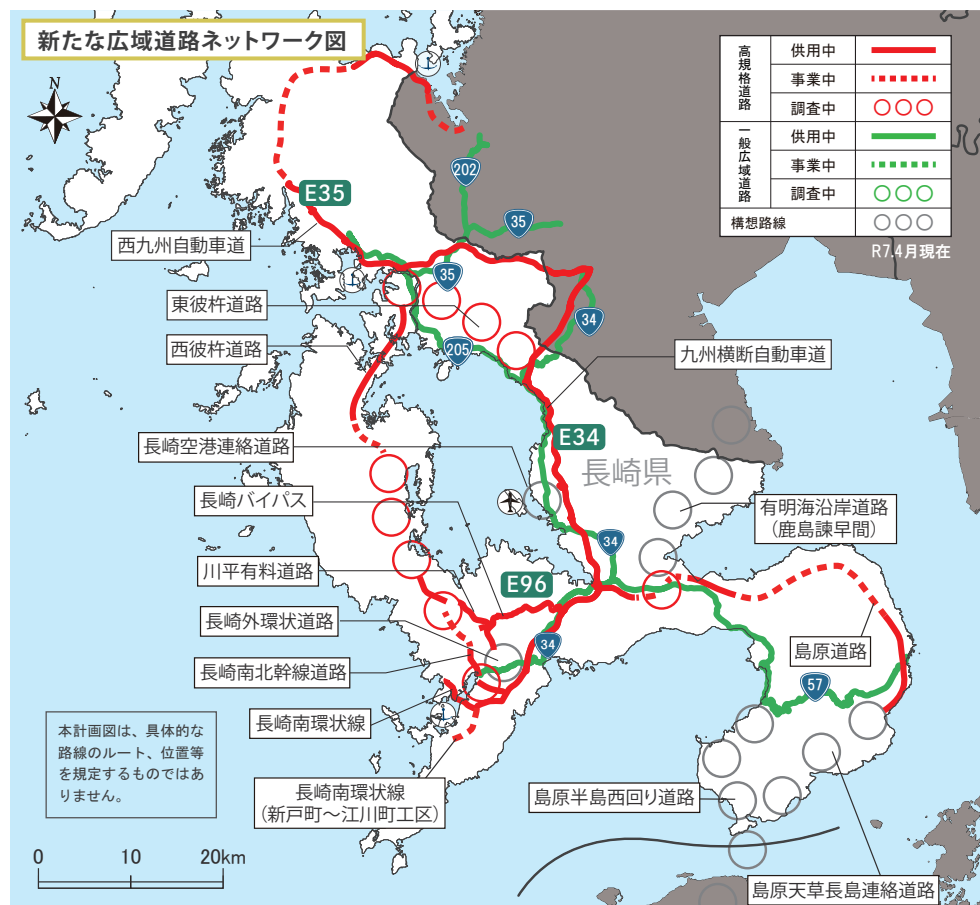
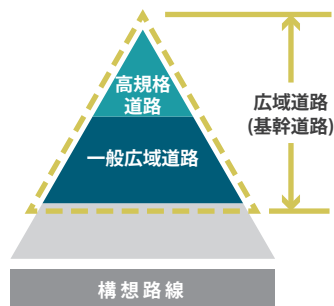
- ・ ICT 技術を活用した施策の展開

長崎県新広域道路交通計画

1 広域道路ネットワーク計画

広域道路ネットワークは、県内外の主要拠点間を繋ぐネットワークや、環状に連絡するネットワークなどで構成する。

高規格道路	サービス速度 60km以上	一般広域道路	サービス速度 40km以上
・ブロック都市圏間を連絡する道路 ・ブロック都市圏内の拠点連絡や中心都市を環状に連絡する道路 ・上記道路と重要な空港、港湾を連絡する道路			
・広域交通の拠点となる都市を効率的かつ効果的に連絡する道路 ・高規格道路や上記道路と重要な空港、港湾等を連絡する道路 (いずれも高規格道路を除く道路)			
構想路線 ・高規格道路としての役割が期待されるものの、個別路線の調査に着手していない道路			



2 交通・防災拠点計画

九州新幹線(西九州ルート)との連携強化

新幹線駅となる長崎駅、諫早駅、新大村駅

新幹線駅においては、開業効果を最大限発現できるよう、バスターミナル等を含めた駅周辺地区の整備と連携しながら、新幹線と道路や公共交通とのモーダルコネクト機能の強化を図る。

空港・港湾におけるゲートウェイ機能の強化

長崎空港や長崎港及び佐世保港などの交通拠点

多数の観光客が来訪する空港・港湾においては、大型クルーズ船の入港等による、周辺地区での交通混雑に適切に対応していく。

地方部における公共交通拠点の機能強化

道の駅や公共施設など

バスや乗り合いタクシーなど公共交通を集積する道の駅や公共施設などの拠点を整備し、拠点までのアクセスを確保する。

主要な防災拠点の機能強化

道の駅等

災害時の避難、救援活動、緊急物資集積地などの防災機能を強化する。
また、主要都市からのアクセスルートを確認する。

3 ICT交通マネジメント計画

ICT技術を活用した交通マネジメント

ETC 2.0等のプローブデータを活用した交通渋滞の要因分析と対策を検討する。

ICT技術を活用した交通安全対策

ICT技術を活用して予防的対策を進めていく。

- ・潜在的な事故危険箇所の抽出
- ・生活道路における速度抑制対策の検討

ICT技術を活用した道路を賢く使う取組

ICT技術を活用した道路の課題の把握や更なる機能向上を図る。

- ・道路交通の課題解決に向けた手法の検討
- ・高速道路外への一時退出を可能とする賢い料金

先進技術を見据えた新たな道路施策の検討

自動運転やICTを用いた先進技術の導入をはじめとしたMaaSを活用し、移動の利便性向上や地域の課題解決に資する新たな道路施策を検討する。